

2つのイブニングセミナーを催し、好評を博した。

本学にとって、参加者が1,000名を超える全国

学会を学内で開催したのは開学以来初のことであり、学内外の多くの先生方にご尽力いただいた。改めて関係各位に厚く御礼申し上げる。

4. 第49回日本医学教育学会大会

相馬 仁（札幌医科大学医療人育成センター）

2017年8月18日（金）および19日（土）の2日間、札幌医科大学が主宰校となり第49回日本医学教育学会大会が37年振りに北海道で開催された。北海道が抱える地域医療の課題には北海道の広域性が大きくかわり、医療人の地域偏在を生み出している。この課題解決を目指して、地域と共に取り組んできた医学教育の成果を示し、発展的に議論を進められることも狙い、「地域と共に医学教育を発展させる」を本大会の開催テーマとした。このテーマにふさわしい2人の海外からの招請者（Anne Stephenson教授（Kings College of London, UK）とJill Thistlethwaite教授（University of Technology Sydney, Australia））による基調講演が行われた。また、毎年行われる日韓医学教育学会交流招待者講演では、李榮美教授（高麗医科大学）が、研修医のプロフェッショナルリズム強化の教育に関する講演された。その中で、日本との共有する点が多くあることを気づかされ、今後の発展的な連携が望まれる。さらに、ノーベル化学賞受賞者である鈴木章先生（北大名誉教授）か

ら特別講演として、ノーベル賞受賞を成し遂げた研究内容とその医学応用等、興味深い話を伺った。その後、学生教育への教員の姿勢、研究マインドの醸成等に関して活発な討論の場となった。

シンポジウム、一般口演では、様々な視点から医学教育の現状と課題が討論され、最新の教育を学ぶ機会となったと考えている。さらに、医療教育の方法と評価について焦点を当てたテーマもあり、医学教育の広さと奥深さが現れていた。

本大会の参加者数は1,164名、演題総数は614題で予想を上回る数字であった。その内、インターナショナルセッションに50演題の登録があり、海外からの注目も集めた国際性が高くなったと思われる。学術展示では、最新の医学教育に必要な機器（シミュレーター、電子教材等）が紹介された。参加者にとって、有用な情報交換の場となるのみならず、刻々変化する医学教育におけるニーズにも十分応えられるよう、本大会は役割の一端を担ったものと考えている。

